

プレスリリース

明治神宮外苑創建百年記念

聖徳記念絵画館の巨大壁画にせまる

Commemorating the 100th anniversary of the founding of Meiji Jingu Gaien
Exploring the Gigantic Paintings of the Meiji Memorial Picture Gallery

会期：令和8年9月26日（土）～12月6日（日）



《前期》9月26日（土）～10月11日（日）

歴史画のパトロネージュ

～明治の画家を支えた人々～

《中期》10月17日（土）～11月8日（日）

生誕150年の画家たち

～展覧会を彩った名品とともに～

《後期》11月14日（土）～12月6日（日）

海を渡った洋画家たちが見た明治

～その画業と交友と～

展覧会概要

明治神宮外苑の中心施設である聖徳記念絵画館には、明治天皇・昭憲皇太后の御事績を描いた80点の巨大壁画が展示され、長い時を経てもなお鮮やかに、近代国家の礎を築いた明治という激動の時代を雄弁に物語っています。その裏には、壁画制作に精魂を込めた画家たちの並々ならぬ努力がありました。

令和8年（2026）10月、外苑が大正15年（1926）の創建から100年の節目を迎えるにあたり、歴史の継承を絵画館の壁画に託した先人に思いを致し、このたび明治神宮ミュージアムにて特別展を開催します。

明治を生き、明治を描いた壁画の揮毫者たちに焦点をあて、その画業と志を3期にわたって紹介。実物の巨大壁画を通期で6点、2点ずつ入れ替えながら展示するほか、前・中・後各期テーマごとに、官展受賞作などの揮毫者の作品を展示し、その多彩な活躍を紹介します。壁画を通じて現代に至りても全国に結ばれる明治の時代と息吹を感じていただければ幸いです。

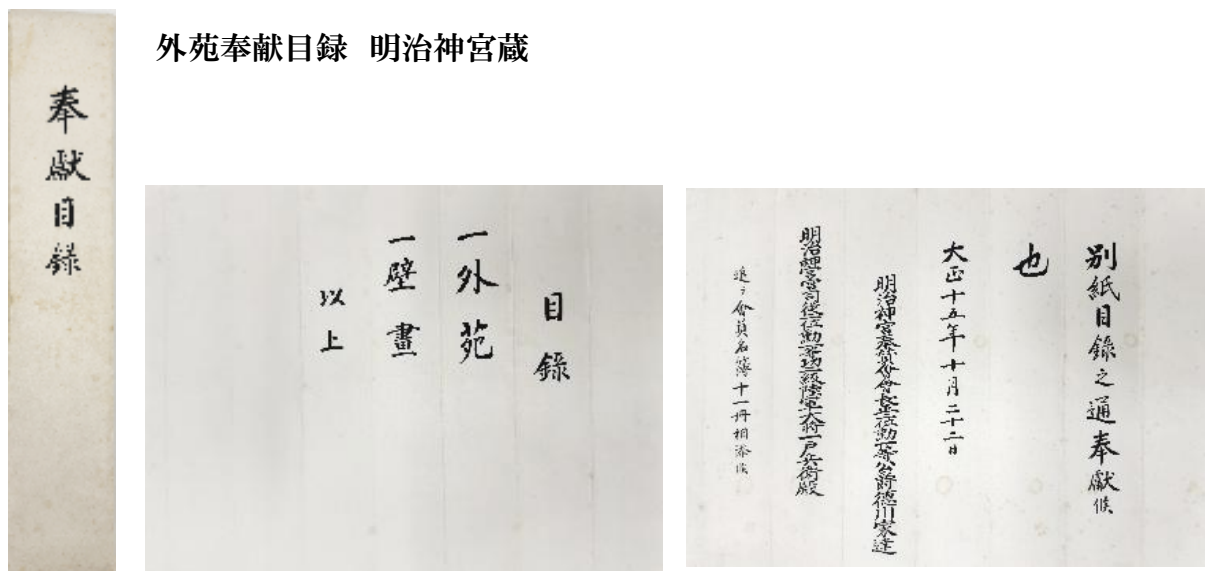
聖徳記念絵画館の誕生

外苑奉献に関する資料や壁画制作に関する資料を展示します

明治神宮(内苑)は、明治天皇と皇后である昭憲皇太后をお祀りする神社として、大正9年(1920)11月、代々木の地に鎮座しました。内苑が国費で創建されたのに対し、外苑は実業家の渋沢栄一ほか民間有志が立ち上げた明治神宮奉賛会によって人々が集う明治天皇の記念施設として造営されました。その外苑の中心施設として聖徳記念絵画館の建設が計画されると、壁画の画題や画家の選定がはじまります。

奉賛会関係者や各画家たちは入念な歴史考証と調査を行い、《壁画謹製記録草稿》には、そうした調査内容や壁画制作に携わった人々の苦心談が綴られています。

外苑奉献目録 明治神宮蔵



壁画謹製記録草稿 24冊 明治神宮蔵

壁画を描いた画家たちの考証や製作上の苦心談をまとめた記録。



壁画画題資料 明治神宮蔵

明治神宮奉賛会は資料調査や現地視察を行い、内容を壁画画題資料と壁画画題考証図にまとめ、画家たちに提供しました。

巨大壁画を展示！

各期2点ずつ全6点

聖徳記念絵画館の巨大壁画を展示

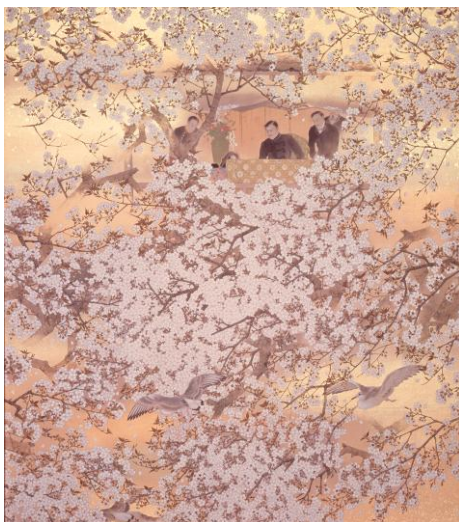
明治神宮奉賛会は、洋画家の二世五姓田芳柳へ画題考証図の制作を依頼し、壁画制作に挑んだ76名の画家たちに参考資料として配られました。各画家たちは自身で調査を入念に行いながら、考証図を参考にして構図を定めていきました。下絵(下図)が完成すると、明治神宮奉賛会で下絵持ち寄り会という会議が行われ、適宜修正を加えながら完成させました。

画題考証図を制作した二世五姓田は、のちに明治天皇紀附図の制作も行っています。本展覧会では、二世五姓田が描いた画題考証図と明治天皇紀附図、壁画の下絵や下図、画家たちが調査を行った際のスケッチなどを展示します。

ごく一部ですが、巨大壁画が完成するまでのプロセスをぜひお楽しみください。



富岡製糸場行啓 荒井寛方



徳川邸行幸 木村武山



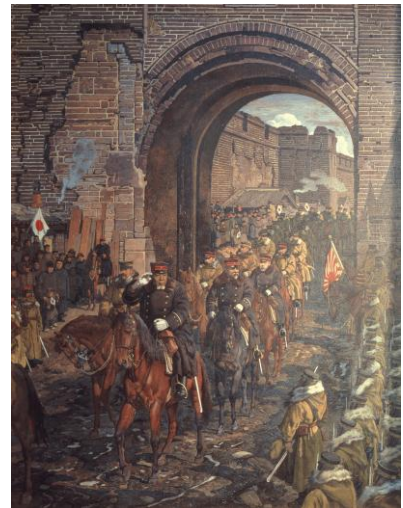
憲法発布式 和田英作



王政復古 島田墨仙



岩倉邸行幸 北蓮蔵



日露役奉天戦 鹿子木孟郎

【前 期】

➤ 壁画《富岡製糸場行啓》を描いた荒井寛方の作品



《海神》

さくら市ミュージアム－荒井寛方記念館－蔵

荒井寛方(1878－1945)は栃木県さくら市ゆかりの画家。

インドのアジャンタ壁画や法隆寺金堂壁画の模写事業を手がけるなど、仏画において大きな功績を残したことで知られています。



壁画制作にあたっては綿密な調査を行っており、特に、富岡製糸場で働く女工たちが糸を紡ぐ細かな指先の動きを描くのに苦心したといっています。

➤ 壁画《王政復古》を描いた島田墨仙の作品



《橋本左内》

福井市立郷土歴史博物館蔵

島田墨仙(1878－1943)は福井県ゆかりの画家。

福井藩士松平春嶽公の書画の指南役であった父・雪谷やアメリカの海洋調査船に乗り込み博物資料を手がけた兄・雪湖も有名です。

壁画制作の途中、大病で危篤状態になりますが、奇蹟的に回復し壁画をみごとに完成させました。「壁画謹製の記」には、制作の傍で支えてくれた妻・節衣子への感謝が綴られています。



【中 期】

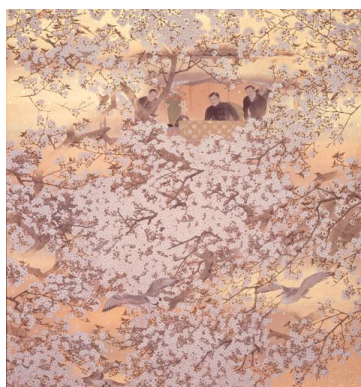
➤ 壁画《徳川邸行幸》を描いた木村武山の作品



《弁財天》

茨城県近代美術館蔵

木村武山(1876－1942)は茨城県笠間市ゆかりの画家。
岡倉天心の薫陶を受け、歴史画や花鳥画を得意とし、晩年には仏画にも取り組んだ事で知られています。隅田川で行われた投網を明治天皇が



天覧された場面を描いた壁画《徳川邸行幸》では画面いっぱいに桜花を描いています。また、晩年の作品である《弁財天》では、衣装や装身具に暈縹彩色(うんげんさいしき)という伝統的技法が用いられ、弁財天のまわりに六頭の白龍と、柔らかく漂う雲煙が合わさって、幻想的な世界を表現しています。

➤ 壁画《岩倉邸行幸》を描いた北蓮蔵の作品



《午の憩》(習作)

早稲田大学會津八一記念博物館蔵



北蓮蔵(1876－1949)は岐阜県ゆかりの画家。

帝国劇場の舞台背景を手掛けていたことで知られています。北蓮蔵は、壁画制作にあたって岩倉具視邸で十五号カンヴァスに油彩写生を行ないました。

岩倉具視とみられる男性像や、具視夫人・楨子と具綱夫人・増子の丸髷姿、生花が飾られていた氷柱など詳細な油彩写生も残されています。

【後 期】

➤ 壁画《憲法発布式》を描いた和田英作の作品



《落穂拾い》

ミレー原作・和田英作模写

東京藝術大学蔵



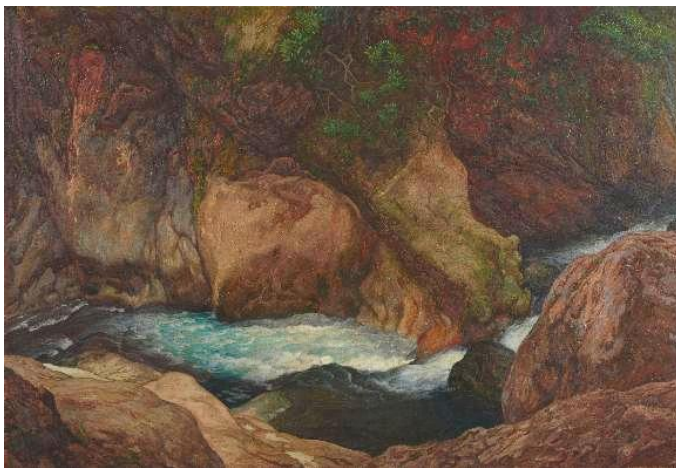
和田英作(1874－1959)は鹿児島県ゆかりの画家。

ヨーロッパへ留学中はパリ在留日本人の親睦団体「パンテオン会」へ入会し、言葉や住居といった生活面での支援を受けながら洋画の修行に励んでいました。

和田と同時期にヨーロッパへ留学した日本人の洋画家たちは現地で名画を模写しており、帰国後、展覧会でそれぞれの模写が披露されました。

これらの模写は日本の後進の洋画家たちの教材として重宝されました。

➤ 壁画《日露役奉天戦》を描いた鹿子木孟郎の作品



《大台ヶ原山中》

国(皇居三の丸尚蔵館収蔵)



鹿子木孟郎(1874－1941)は岡山県ゆかりの画家。

三度にわたってフランスへ留学し、フランス最後の歴史画家と称されるジャン＝ポール・ローランスから薫陶を受けました。

壁画制作にあたって写生した兵士や軍馬、銃や馬具などの詳細なスケッチが残されています。京都深草の第十六師団と奉天(現中華人民共和国瀋陽市)で調査を行なう際には、奉天入城が厳寒の三月であったことからあえて同時期の真冬を選ぶなど、制作への熱意がうかがえます。

【そのほかの展示作品】

◆ 前期展

菅楯彦《社人迎春》 東京国立近代美術館蔵

松林桂月《富士に桜》 明治神宮蔵

松岡映丘《明治天皇御尊影》 明治神宮蔵

岡田三郎助《五葉蔦》 泉屋博古館東京蔵

ほか

◆ 中期展

川崎小虎《こだま》 東京国立近代美術館蔵

中村不折/画・高浜虚子/句筆《道芝や》 東京国立博物館蔵

山本森之助《曲浦》 東京国立近代美術館蔵

ほか

◆ 後期展

和田英作《思郷》 東京藝術大学蔵

南薫造《少女(半成)》 東京藝術大学蔵

山下新太郎《読書の後》 泉屋博古館東京蔵

ほか

通期特設コーナー

会 場：明治神宮ミュージアムロビー

➤ パネル展「明治神宮外苑の100年」を開催

外苑の誕生からこれまでの100年のあゆみをパネル展示します

➤ 壁画と揮毫者を知るレファレンスコーナー

ロビーの一部区画を利用して、壁画揮毫者にゆかりある博物館・美術館のポスターやチラシなど
展覧会情報、また図録や作品集などが閲覧できます

※販売はございません

【関連イベント】

連続レクチャー詳細

ワークショップ詳細



➤ 連続レクチャー

各回13:00～15:00 定員:各回50名(抽選) 参加費:各回1,000円(入館料込み)

第1回 10月8日(木)

《王政復古》を描いた島田墨仙を語る 佐々木美帆(福井県立美術館主任)

《富岡製糸場行啓》を描いた荒井寛方を語る 大木礼子(さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館-館長)

第2回 10月29日(木)

《徳川邸行幸》を描いた木村武山を語る 中田智則(茨城県近代美術館企画課長)

《岩倉邸行幸》を描いた北蓮蔵を語る 奥間政作(秋田公立美術大学美術教育センター准教授)

第3回 11月19日(木)

壁画を描いた画家たちの留学と交友 山田真規子(目黒区美術館学芸係長)

宮内省買上品・献上品に見る壁画揮毫者たちの画業 田中純一郎(皇居三の丸尚蔵館主任研究員)

➤ ワークショップ

9月26日(土)・27日(日)

繭からの糸繰り実演と体験 講師:林久美子(シルクキュレーター)

共催/明治神宮、一般財団法人大日本蚕糸会

開催場所/明治神宮ミュージアムロビー

開催時間/13:00～15:00

申込不要 入館者はどなたでも見学できます

9月27日(日)

繭クラフトから糸繰りまで五感で楽しむ養蚕文化

共催/明治神宮、一般財団法人大日本蚕糸会

協力/富岡製糸場世界遺産伝道師協会

開催場所/明治神宮参集殿

開催時間/11:00～16:00(最終入場15:30)

申込不要 (一部繭クラフトづくり、座繰り体験等は混雑時整理券配布)

11月7日(土)

巨匠・木村武山の世界へ

笠間×明治神宮の旅 日帰りバスツアー

主催/笠間観光協会

共催/笠間市

協力/明治神宮、笠間稲荷神社

壁画でむすぶ全国ネットワーク

新規開設

ウェブ絵画館ベータ版を一般公開！



聖徳記念絵画館80点の壁画とその揮毫者の情報を公開する
ウェブ絵画館をたちあげます。

本サイトでは、

壁画揮毫者にゆかりある美術館・博物館、
描かれた歴史事物にゆかりある団体などが連携し、
情報の共有・発信、

明治の歴史・美術をテーマにした共同調査・学際研究への展開を目指します。

10月1日に明治神宮ウェブサイトで一般公開するのに先だち、
内覧会でウェブ絵画館を実際にご覧いただきます。

あわせて、

絵画館コンソーシアム事業(仮称)の新たな取り組みについて紹介します。

開発・協力：アクチュアル株式会社

【内覧会での本事業説明】

展示と関連催事および絵画館コンソーシアム(仮称)事業について

今泉宜子(明治神宮国際神道文化研究所主任研究員)

壁画でむすぶ全国ネットワーク～ウェブ絵画館ベータ版の公開について

桐惇史(アクチュアル株式会社プロジェクトマネージャー)

取材・掲載のご依頼は下記までお願いいたします。

〒151-0052

東京都渋谷区代々木神園町1-1

明治神宮ミュージアム

TEL : 03-3379-5875

FAX : 03-3379-5528

E-mail : houmotsu_mj@so.meijijingu.or.jp

※当館の取材を主目的としないロケ撮影・背景使用はご遠慮いただいております。

※車でお越しの場合、代々木口からのみ入苑可能です。入苑時に指定される場所へ駐車願います。

※聖徳記念絵画館壁画および当館所蔵の品に限り、本資料掲載の画像はご提供可能です
(二次使用不可)。ご希望の画像をお知らせください。

※事実確認のため、掲載前に原稿等を拝見しております。難しい場合はご相談ください。

※明治神宮境内の撮影につきましては[明治神宮社務所\(03-3379-5511\)](mailto:houmotsu_mj@so.meijijingu.or.jp)へお問い合わせください。

